



高度急性期医療と先進的医療の 開発・研究を総合力と優れた安全の下で

【教育】豊かな人間性を持った優れた医療人の育成

- 臨床と研究能力を兼ね備えた医師の養成。
- 特定行為研修の推進。
- 看護・医療技術領域の医療専門職の育成を図るとともに、職員の医療安全能力の向上に資するための実践的教育パッケージの開発を継続し活用する。



【研究】未来医療の開発・実践

- 未来医療開発部を軸に、臨床研究の拠点としての臨床研究支援体制の充実を図る。
- 臨床研究法等、臨床研究に関わる規制への対応。
- AIホスピタル事業の推進。
- 情報信託機能を用いた医療データ利活用実証事業の推進。

【診療】高度な医療の提供

- 病院長のリーダーシップのもと、院内の診療体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 国及び地方公共団体等との連携強化。
- 高度機能病院として必要な診療環境を確保するため、施設の整備・改修を図るとともに、医療機器の更新・充実を図る。
- 患者サービスの更なる向上を図り、患者の立場に立った安心・安全な医療の提供を推進する。
- 全臓器移植を行っている国内で2施設しかない施設の1つであり、高度・先進的な臓器移植医療を今後も積極的に展開するとともに、小児も含めた臓器提供体制を十分に整備して責任ある臓器移植・臓器提供病院として本邦の移植医療の規範となる。
- 全国で最多の承認件数を誇る先進医療をさらに推進し、先進的な医療の開発を通し、医療水準の向上を図る。
- がんゲノム医療の推進。
- 病院情報システムの検討。

【地域医療への貢献】地域医療機関とのネットワーク

- 各センター等による地域医療への貢献を図る。

【国際化】診療と教育のグローバル化

- 国際医療センターにおける外国人患者の診療体制並びに外国人医療従事者等の研修受入れ体制（インバウンド）と、本院を中心に国内で開発された医薬品・医療機器・再生医療等製品・医療技術などのグローバル展開体制（アウトバウンド）、国際医療に関わる課題や院内教職員の教育（国際医療研究・教育）を積極的に推進し整備する。

【運営】病院運営のための基盤強化

- 病院長のリーダーシップのもと、運営体制の見直しを図るとともに、業務の効率化を促進する。
- 防災対策及び災害医療に係る検討を行い、院内外の連携体制の強化を図る。

病院長からのご挨拶

Futurability 待ち遠しくなる未来へ。

大阪大学医学部附属病院

病院長 土岐 祐一郎



大阪大学医学部附属病院(阪大病院)の理念は「良質な医療を提供すると共に、医療人の育成と医学の発展に貢献する」です。3つの柱の中で一番先に来る「良質な医療の提供」とは一体どのような医療でしょうか?大学病院では最高のスタッフと最新の医療機器をそろえ、最良の医療、他ではできない医療を提供することができます。患者さんの求める大学病院ならではの高度な医療の提供が最大の目的です。更に現代の医療においてはより高い安全性を求められます。自動車もスピードを競うのではなく安全性を競う時代になりました。医療が複雑化、高度化するにつれて安全性を確保するために様々な努力が必要になります。阪大病院は国立大学病院長会議常置委員会の医療安全管理体制担当校として全国の医療安全をリードする立場にあり、患者さんには安心して高度な医療を受けていただくことができます。性能、安全性に続く、第3の良質の要素は快適性です。患者サービス部門では患者さんの声を反映させた様々な試みを行っています。しかし、快適性についてはまだ患者さんを十分満足させていないと感じています。問題の一つは病院の診療規模の急速な拡大です。本院は吹田に移転して27年になります。ベッド数は増えていないので同じように見えるかもしれませんが、そこで行われる検査の件数、手術や内視鏡・放射線治療の件数、そして職員の人数は倍以上に増えています。良質な医療を提供し続けた結果、患者さんからの評判は良くなり、質だけでなく、量も増えてくるのは有難いことです。しかし、診療待ちの時間や駐車場の混雑については、決して良質の快適性と言えない部分もあります。そこで本院では、病院再開発として新しい統合診療棟の建設に取り組んでいます。建設工事は2021年に始まり2025年の運用開始を目指す計画です。工事期間中には更なるご迷惑をおかけすることになりますが、ご容赦くださいますよう、よろしくお願いたします。

次に来るのは「医療人の育成」です。大阪大学では医師のみならず、医学部保健学科では看護師、検査技師、放射線技師、また薬学部では薬剤師と様々な医療職の育成を行っています。また、医療が高度化したことにより「卒業後は現場で仕事を覚える」では済まない時代になり、各種専門医や技術認定医、認定看護師など全ての業種で、働きながら勉強する社会人教育が必要になってきました。本院は大阪地区の社会人教育の中心として多数の地域の病院と連携しています。社会人教育を通して、大阪地区全体の医療を担っているといっても過言ではありません。

最後に来るのが「医学の発展」です。大阪大学は学問において日本で、世界でトップを競う大学です。本院は「臨床研究中核病院」として新しい医療を創出すべき大学病院として認定されています。例えば、未来医療開発部では大学と研究者が一体となって再生医療などの先進的な医療を開発しています。このほかにも「がんゲノム医療中核拠点病院」「AIホスピタル」と未来の医療を担う仕事を国から任されています。先に述べた病院再開発においても、現在の医療のみならず将来の医療を開発することを目的としています。病院再開発のキャッチフレーズは「Futurability 待ち遠しくなる未来へ。」といたしました。

患者さんや地域の皆さんの信頼と期待に応える病院となるように職員一同頑張っております。